

言實新聞

104

金沢支局
〒920-0024 金沢市西金1-1-3
TEL 261-9131 FAX 231-5254
メール kanaza wa@yomiuri.com
能登支局
〒926-0053 七尾市本町中町2-35-1
TEL 0761-0280 FAX 53-2515
加賀支局
〒923-0004 小松市小馬出町92
TEL 0761-23-2633 FAX 23-2635
北陸支局
〒933-8543 高岡市下關町4-5
TEL 0766-26-6812 FAX 26-6814

www.jimori-hokuriku.jp
[広告] 講亮エーシェンシード日本
本社(高岡)
TEL 076-21-3471
FAX 076-261-7985
【折込】北陸講亮 IS 076-204-9486
【旅行】講亮旅行 北陸総合支店
TEL 076-221-0036

県立津幡高校でより月から、養蚕を学ぶ授業が始まり、その様子を取材した。

てているのが現状だ。このため、白山県は、県外産の繭かられていてる伝統工場に、蚕の一品種である「玉小石」を作ることで、近郊の養蚕業の衰退などを理由として、07年を最後に養蚕の授業が行われなくなつた。今回の授業は、同校の創立100周年に向けて、担当の大丸孝彦教諭は、「生徒に少しでも養蚕文化に興味持つてもらいたい」との思いを込める。

県内ではかつて養蚕業が盛んだったが、安価な外国産絹製品の流入や化学繊維の登場で、養蚕農家の戸数は減少。2000年度の生産を最後に養蚕農家は姿を消してしまった。

守つてしまふ。これらに養蚕文化が復活するに世話を取り組んでいたところ業者がきつかけとなり。生徒達には異なる種だが、生徒達は「原料を含めて才牛首紬を作ることの、牛首紬を育てる」という目標まであと一步に沿った。「玉小石」を作ることで、近郊の養蚕業の衰退などを理由として開校じた歴史を持つが、同校は1924年、河北農蚕学校にて開校した歴史を持つが、環で、担当の大丸孝彦教諭は、「生徒に少しでも養蚕文化に興味持つてもらいたい」との思いを込める。

(福原悠介) 守っておきたい。
に養蚕文化が復活する日が来るか見
じの授業がきっとかどり、兎も角
に世話を取組んでみよう。心は異な
る種だが、生徒たちが樂
授業で育てていけるのは玉小石とい
い。ぜひ完成させたい」と語る。
牛首細を作ることの意義は大き
論は「原料を含めてオール石川の
目標まであと一步に迫り、大丸教
着物一反分の繭を収穫している。
飼育が難しいが、園芸部では既より
「繭」を作る玉小石は通常の蚕より
標準に蚕の一品種である「玉小石」
県産原料で牛首細を作ることを目指
そろなか、同校の園芸部のみ
繭らわれていて、白山白峰地区で
た。「この伝統工芸品」牛首
織りは、県外の繭から作られ
ているのが現状だ。

A group of students in a classroom setting are gathered around a large display board featuring a close-up photograph of silkworms feeding on green mulberry leaves. The students are looking intently at the board, some pointing and discussing the details. The display board also includes some explanatory text and diagrams related to silkworms and their diet.

A group of students in school uniforms are gathered around a large, green, rectangular container filled with silkworms and桑葉 (mulberry leaves). The students are looking down at the silkworms, some with hands near the container. The background shows a classroom setting with desks and chairs.

第45841号 [日刊]